

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-518516 (P2001-518516A)

【公表日】平成 13 年 10 月 16 日 (2001.10.16)

【出願番号】特願 2000-514666 (P2000-514666)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 31/708 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 15/18 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/185 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 9/00

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 31/708

A 6 1 K 39/395 M

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 15/18 Z N A

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 31/185

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 10 月 4 日 (2005.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 卵母細胞を抑制有効量の GDF-9 のインヒビターと in vitro で接触させ、それによって卵母細胞の成熟を、未処理の卵母細胞と比べて抑制することを含む、卵母細胞の成熟を抑制する方法。

【請求項 2】 インヒビターが GDF-9 抗体またはその断片である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 抗体がモノクローナル抗体である、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】 抗体がヒト化抗体である、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】 インヒビターが GDF-9 アンチセンス分子である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】 未処理の卵母細胞と比べて、卵母細胞の成熟を抑制するための医薬組成物の製造における、阻害的に有効な量の GDF-9 のインヒビターの使用。

【請求項 7】 インヒビターが GDF-9 抗体またはその断片である、請求項 6 に記載の使用。

【請求項 8】 抗体がモノクローナル抗体である、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】 抗体がヒト化抗体である、請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】 抗体が $0.1 \mu\text{g} \sim 100\text{mg}$ の用量範囲で投与される、請求項 7 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 11】 インヒビターが GDF-9 アンチセンス分子である、請求項 6 に記載の使用。

【請求項 12】 被験体に抗 GDF-9 免疫応答を誘導し、それによって卵母細胞の成熟を抑制するための医薬組成物の製造における、GDF-9 ポリペプチドまたはその免疫原性断片の使用。

【請求項 13】 GDF-9 ポリペプチドまたはその断片がアジュバントとともに投与される、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】 GDF-9 ポリペプチドまたはその断片が遅延放出性送達ビヒクルに加えた状態で注射または移植することにより投与される、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 15】 GDF-9 ポリペプチドまたはその断片が $0.1 \mu\text{g} \sim 100\text{mg}$ の用量範囲で投与される、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 16】 阻害的に有効な量の GDF-9 のインヒビターおよび製薬上許容される担体を含む、卵母細胞の成熟を抑制するための医薬組成物。

【請求項 17】 インヒビターが GDF-9 抗体またはその断片である、請求項 16 に記載の組成物。

【請求項 18】 抗体がモノクローナル抗体である、請求項 17 に記載の組成物。

【請求項 19】 抗体がヒト化抗体である、請求項 18 に記載の組成物。

【請求項 20】 インヒビターが GDF-9 アンチセンス分子である、請求項 16 に記載の組成物。

【請求項 21】 GDF-9 ポリペプチドまたはその免疫原性断片を含む、被験者における GDF-9 に対する免疫応答を誘導するための医薬組成物。